

## 卒後藤谷塾 議事録

開催日時：平成 30 年 2 月 14 日（水）7：00～8：05

場所：テレビ会議

### 近況報告

- A：脳外科をローテート中 3 ヶ月目。検査など、医師と救急外来からの入院の診療にあたり、手術に加わったりしている。
- B：今月、外科から婦人科に配属された。勉強中（医師の体調不良による人員不足のため？）
- C：B 同様、婦人科に昨日配属。まだ始まったばかりで手術の手伝いや書類を扱っている状態。
- D：ICU で活動中。午前は ICU 回診につき、午後は病棟ラウンドを行っている。RRS などの病棟急変での対応を構築している最中。また勉強会なども開催している。
- E：老健や総合診療科に配属。病棟での fast call を受けて活動している。また、整形外科にも所属している。在宅看護についてはこれから検討、準備していく予定。
- F：ICU で研修中。今は患者が少なく受け持ちがいない状態が続いている。カンファレンス、勉強会に参加している。
- G：総合診療科をローテート中。受け持ち患者がいない状態。医師との関係に苦労している。
- H：1 月より整形外科に配属。整形外科が特定ケア看護師についてあまり理解していないため、指導支援の診療看護師に協力を得ながら徐々に理解してもらっている状態。
- I：整形外科、回復期（主に内科）・救急外来を担当している。感染症（整形外科の患者）について内科に治療や検査など相談して、整形外科に返したりしている。
- J：内科に配属されている。入院をとったりしながら研修を続けている。困っていることは長期的な目標が二転三転している状態。今後は外部での研修も視野に入れていくか、検討が必要。
- K：内科、整形外科、外科、婦人科、耳鼻科の病棟で受け持ちは持たずに、気になる患者を探して記録記載している。看護職員の人数の関係で夜勤を現在も行っており、継続的に患者を診ているというよりは単回で診ている。特定行為としては胃瘻や動脈採血を中心に行っている。

### 症例報告：延髄外側症候群

塾長より

陽性所見としてホルネル症候群について記載がなかった。

ホルネル症候群とは

→交感神経下行路を含む部分の虚血性変化（梗塞）が生じた場合に見られる所見

縮瞳・眼瞼下垂・発汗減少で延髄外側症候群ではよく見られる特徴的所見の一つ。

あとはよくまとめられている。